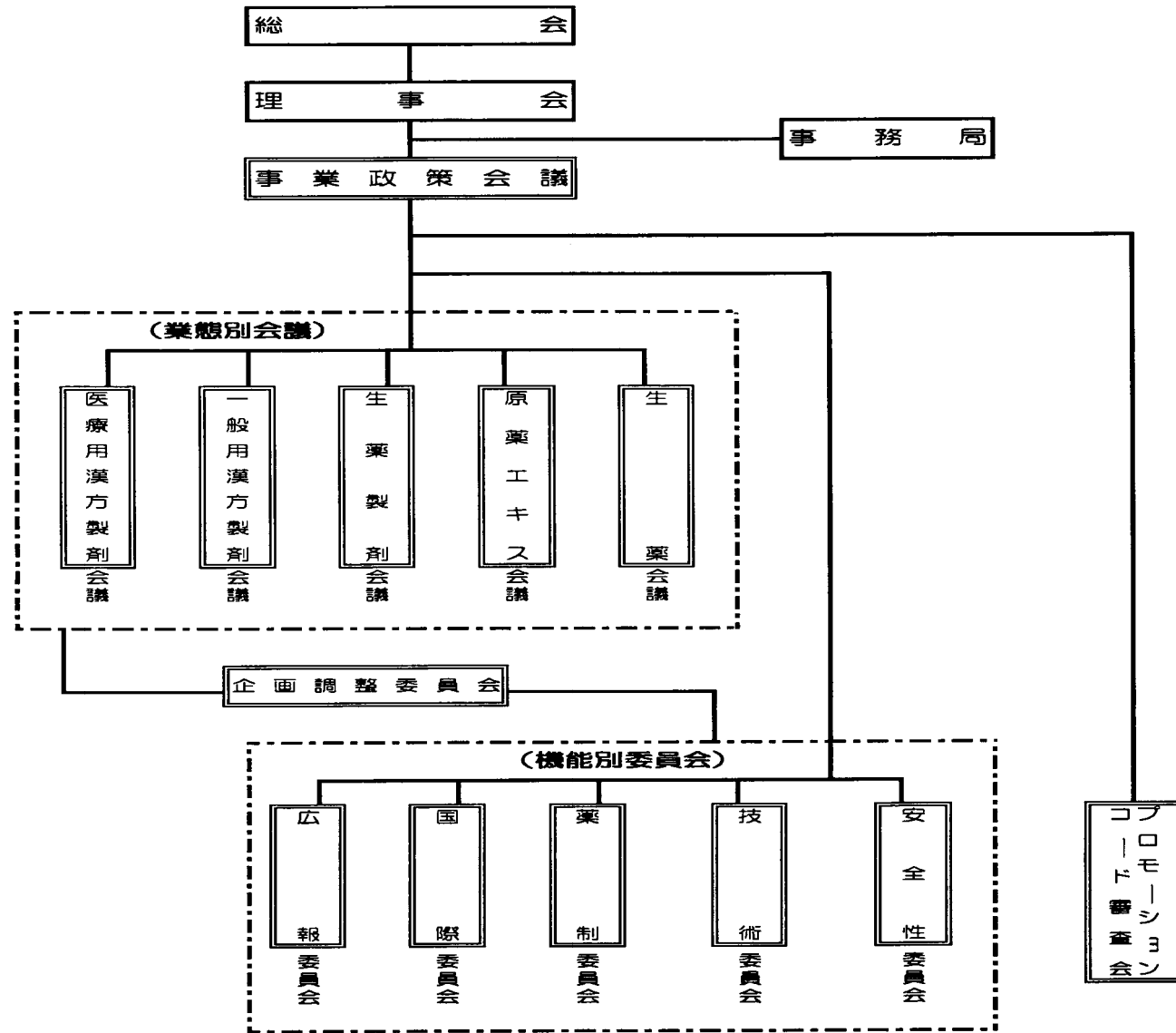


漢方製剤・生薬の現状について

平成20年7月30日

日本漢方生薬製剤協会

日漢協の業態別・機能別の組織図



原料生薬調達の現状と中国国内における生薬市場状況

- ・原料生薬の調達は殆ど中国に依存している(図1)。
- ・中国国内における生薬の市場価格は毎年上昇しており、原料生薬の調達価格は平成14年を基準とした場合、5年後の平成19年には約1.47倍に上昇した。10年後の平成24年には約2.4倍に達すると予測される(図2)。

図1. 原料生薬調達の現状

原料生薬調達の現状: 国別数量比率

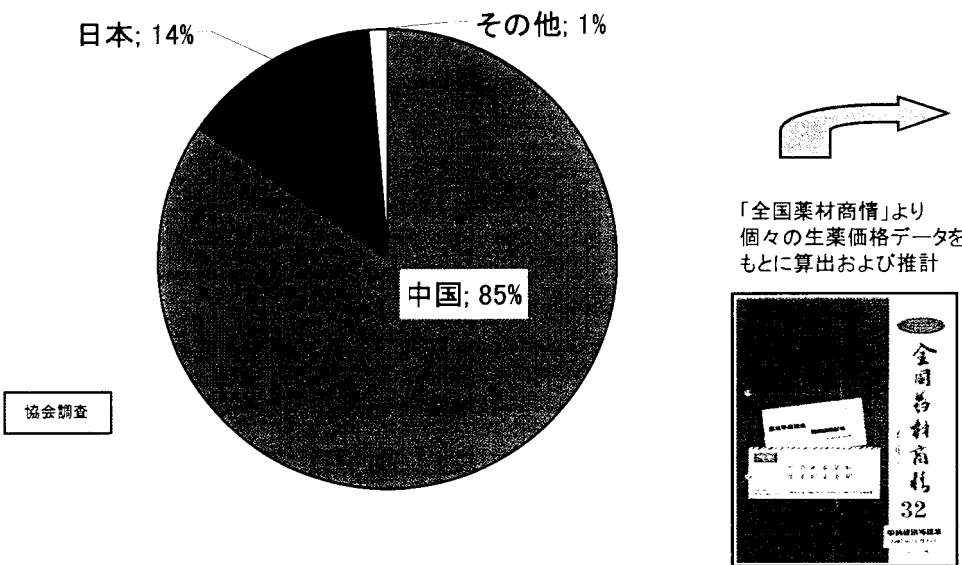
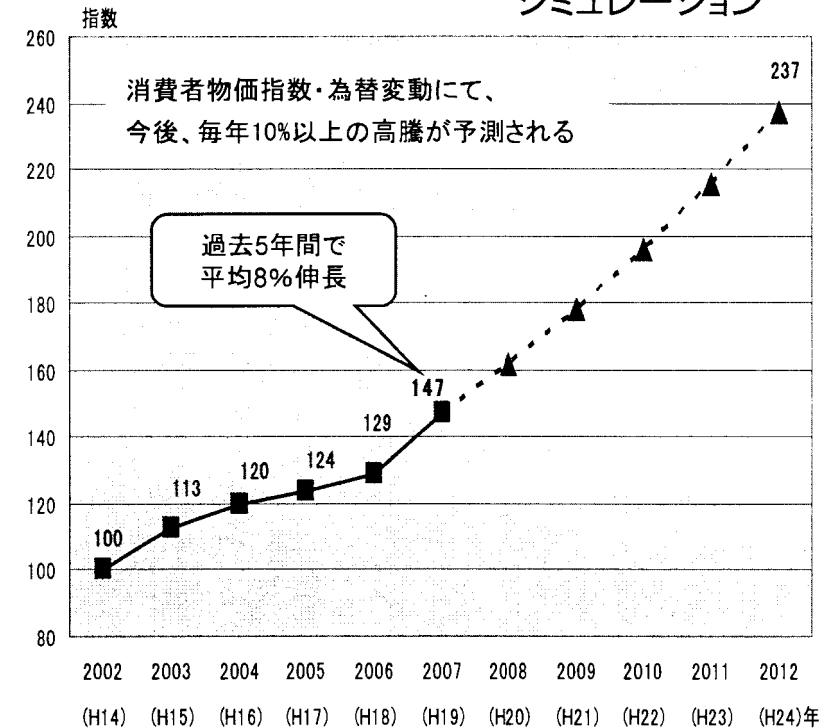
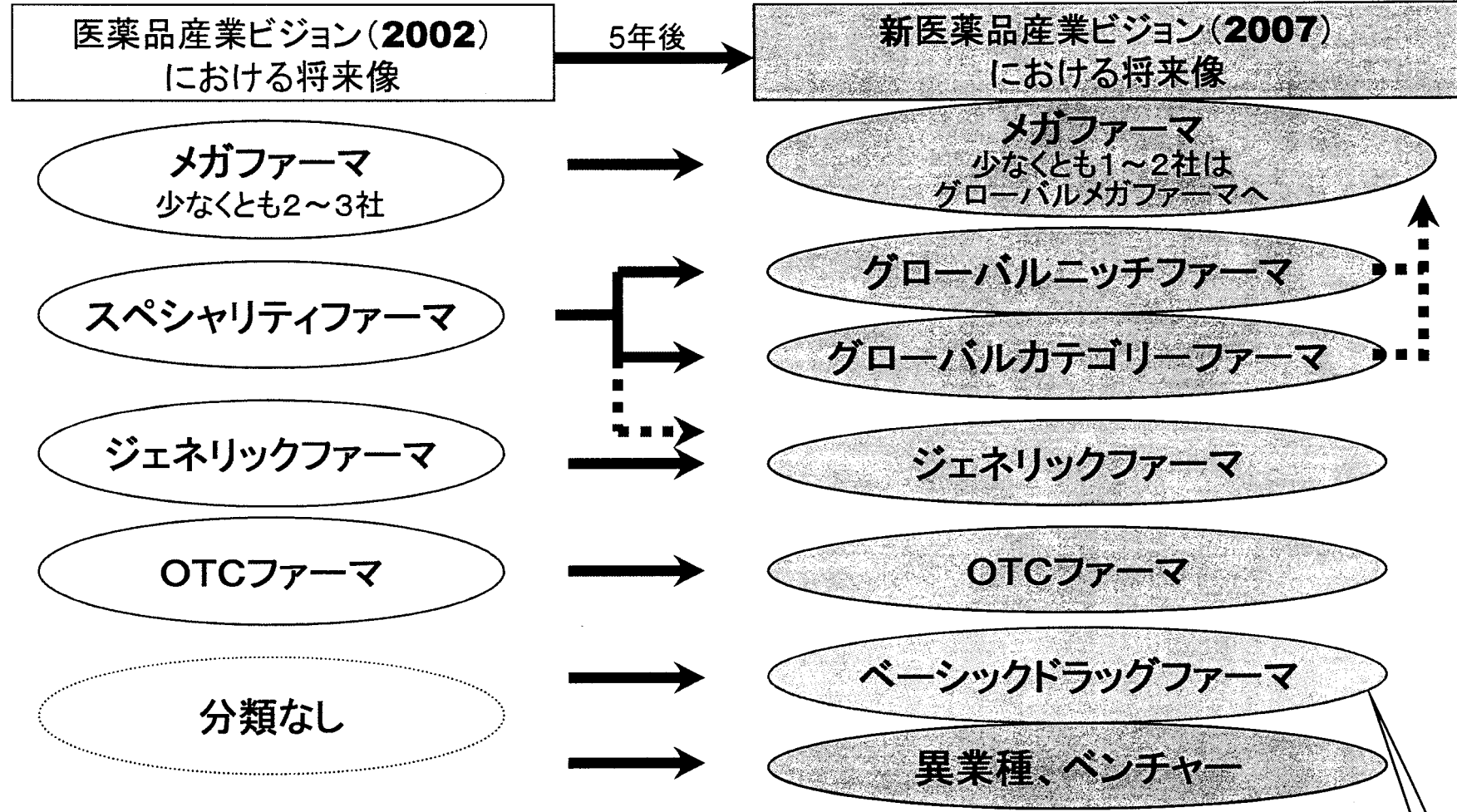


図2. 中国国内における生薬市場価格推移およびシミュレーション



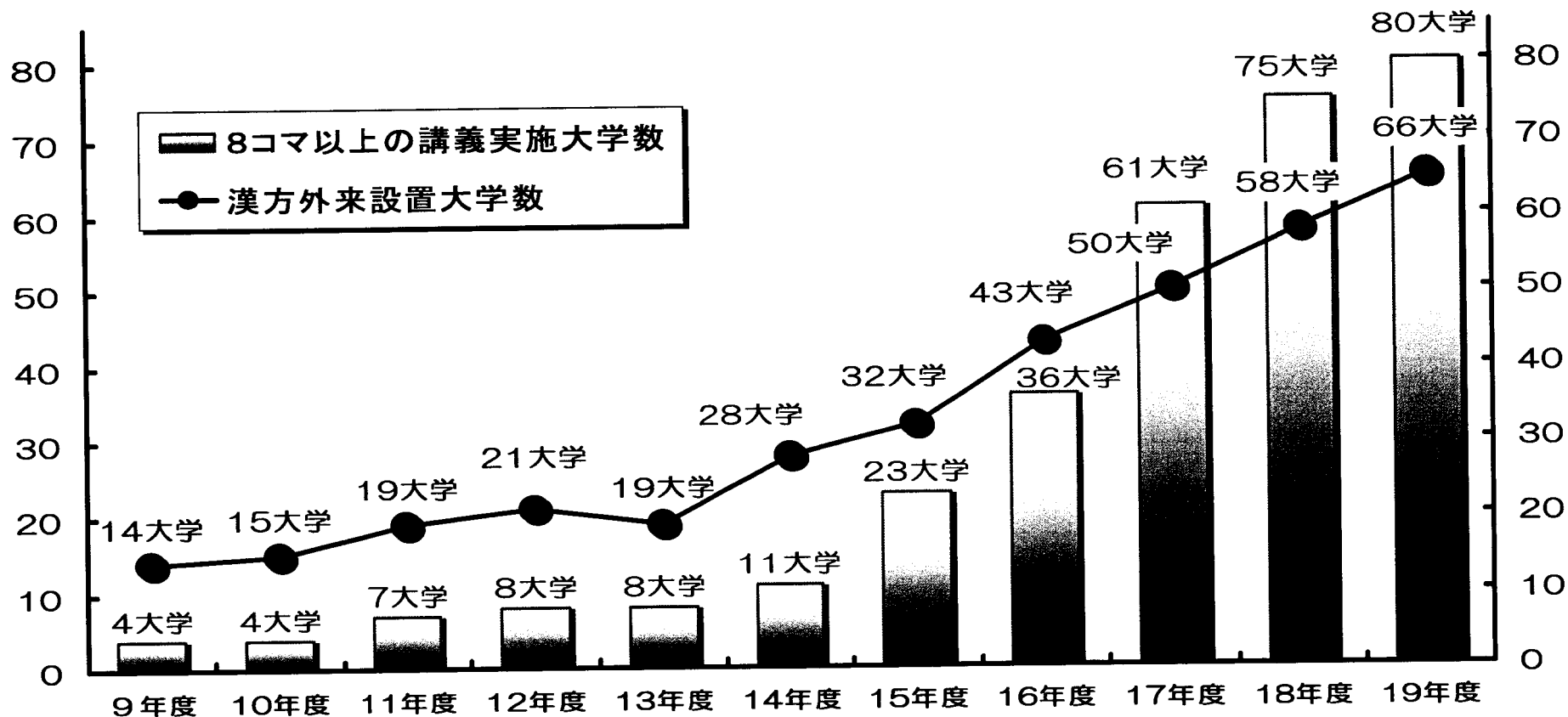
厚生労働省が2007年8月30日に 「新医薬品産業ビジョン」を公表



医療を支える基礎的な医薬品、必須医薬品又は伝統的な医薬品(例えば、ワクチン、輸液、血液製剤、局方品、漢方製剤・生薬など)について、今後も質の良い製品を安定的に供給していけるような企業体質の強化が求められる。【新医薬品産業ビジョン:製薬企業の将来像 より抜粋】

大学医学部・医科大学における 「漢方医学卒前教育」及び「漢方外来」状況

- ・平成13年「医学教育モデル・コア・カリキュラムー教育内容ガイドライン」に“和漢薬を概説できる”が卒業までの到達目標として盛り込まれる。
- ・「漢方医学講義」は、平成16年度より80大学全てにおいて導入されている。平成19年度以降は、全て8コマ以上の講義となっている。
- ・臨床実習を兼ねた「漢方外来」の設置大学は、80大学中 66大学に上っている。 (H20年3月末現在)



諸外国における 伝統医療（代替医療）への取り組み（1）

中国（中医学）

- ・ 審査は、国家食品医薬品管理局内（SFDA）の中医薬部門が担当
- ・ 国家中医薬管理局が中医薬の保護・発展の為、短期・長期的な計画を立案、実施

韓国（韓医学）

- ・ 審査は、食品医薬品安全局内（KFDA）の生薬製剤部門が担当
- ・ 保健福祉部韓方政策官室が、韓医学の発展の為、短期・長期的政策の立案、実施

台湾

- ・ 審査は、中医薬委員会が担当
- ・ 中医薬に関する薬政処、医政処部門が設置

インド（アーユルベーダー）

- ・ 中央政府厚生省内に統合医療の専門部門が設置され、代替・相補医療を研究

ミャンマー

- ・ 保健省伝統薬部門が設置

諸外国における 伝統医療（代替医療）への取り組み（2）

米国（代替・相補医療（CAM、Complementary and Alternative Medicine））

- ・ 米国国立衛生研究所（NIH）を中心に政府主導でCAMの研究が進行
1992年、NIHにOAM（代替医療調査室）を設置し、200万ドルの研究費で始まったCAMに関する研究は、1998年、米国国立衛生研究所に国立代替医療センター（NCCAM）が設立され、近年、年間予算約1億2千万ドルで運営されている。
- ・ FDAの中に植物薬審査部門が設置され、「植物薬ガイダンス」を公表

イギリス（補完医療）

- ・ The Research Council for Complementary Medicine（RCCM）が設置
- ・ 国家レベルでの補完代替医療の研究（5カ年計画）が進行

ドイツ（補完代替医療）

- ・ 医学生は補完代替医療の知識が必修で、医師国家試験に出題される。
- ・ ナチュロパシー（自然医療）やハーブ療法、ホメオパシーが盛ん。医療従事者に浸透している。
例）イチョウ葉エキスが、認知症改善薬として医師により処方されている。